

「指切りげんまん」



すみません
これからやります！

入戸野さん
シート交換
終わった？



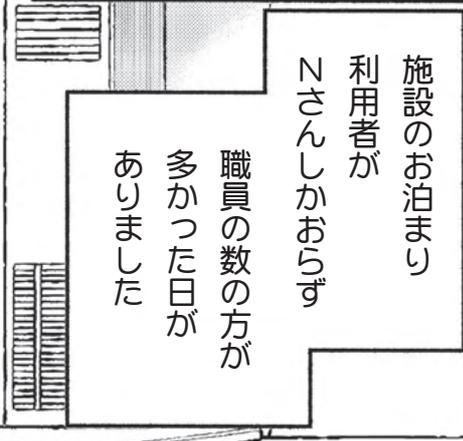
私は介護福祉士として
働き始めて半年が経つ
新卒者です

仕事が多くて
目が回る

覚える事も
やる事も多く

毎日の業務に
追われる日々です











先輩職員は
利用者さんと
話をする時

寄り添い

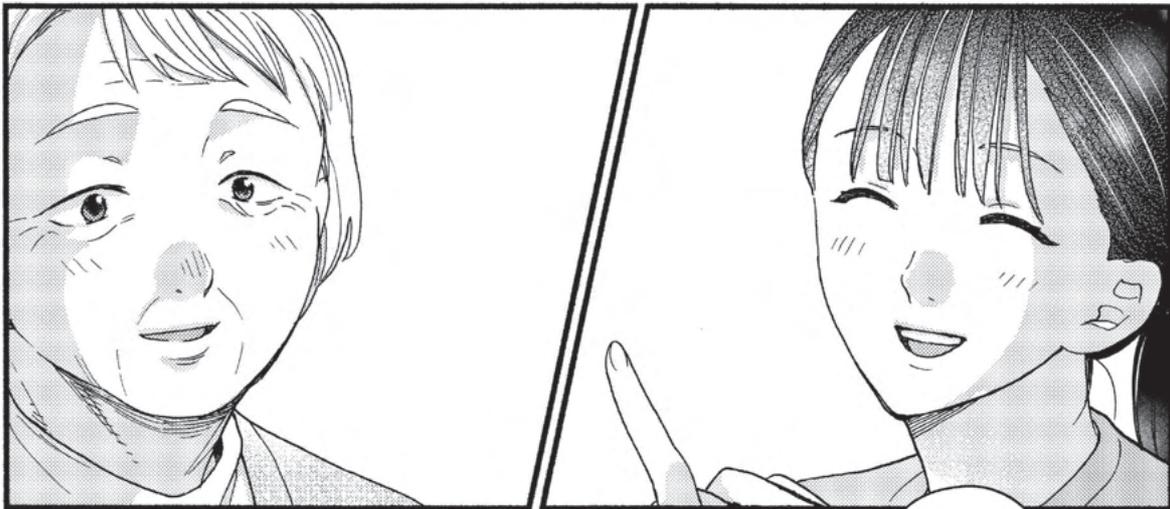
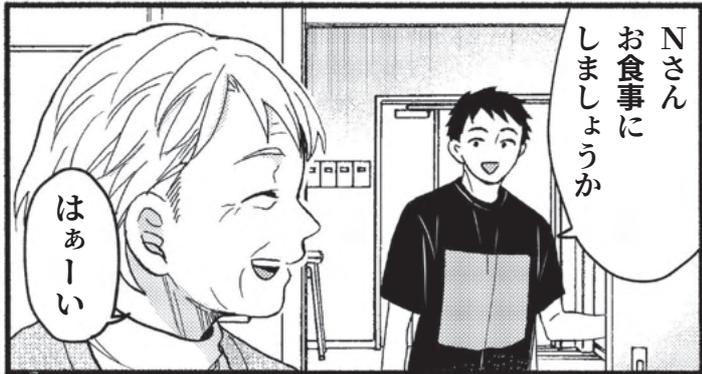
私はNさんの話に
耳を傾け、
相槌を打つことしか
できませんでした

その時に
かけて欲しいと思っ
た言葉をかけています

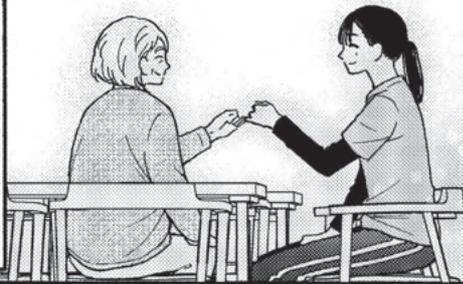


…気の効いた
言葉の一つも
言えない……

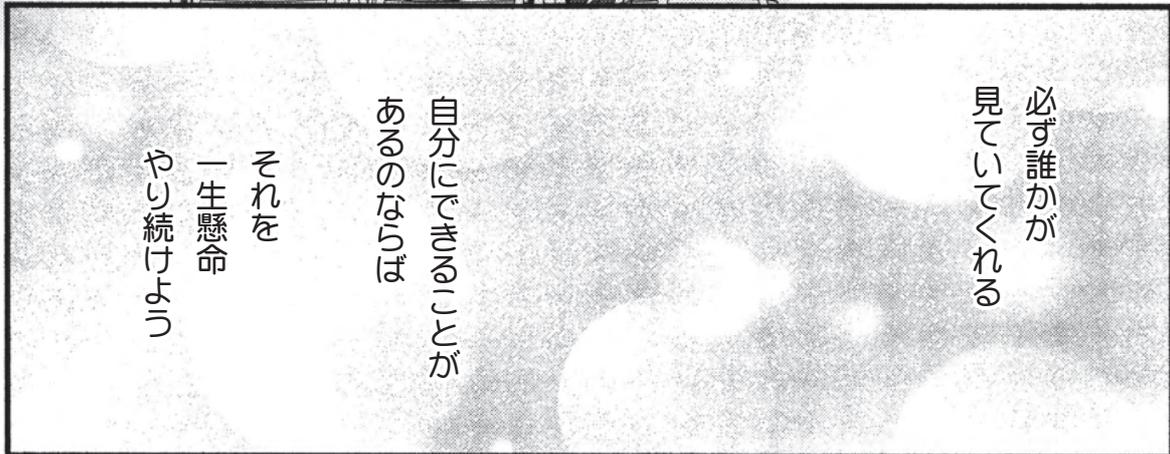




Nさんは
私が今欲しかった
言葉をくれました



指切りげんまん



必ず誰かが
見ていてくれる

自分にできることが
あんなに多い

それを
一生懸命
やり続けよう



やまなし介護感動ストーリー大賞 グランプリ作品

「指切りげんまん」 入戸野くるみさん

私は、介護福祉士として働き始めて半年が経つ新卒者です。ある日、お泊まりが利用者Nさんしかおらず、職員の数の方が多かった日がありました。私はいつも通り掃除を始めようとしていましたが、先輩職員に「利用者Nさんとお話して。コミュニケーション図るのも仕事だからね。」と言われ、先輩職員に申し訳なさを感じながらも、利用者Nさんのもとへ行きました。

最初は世間話から始めましたが、Nさんの方からご自身の今の不安や葛藤を話し始めました。私はその方の話に耳を傾け、相槌を打つことしかできませんでした。先輩職員は利用者さんと話をする時、寄り添い、その時にかけて欲しいと思う言葉をかけています。しかし私はいつも、利用者さんの話を聞くだけです。その時も、Nさんが話をしてくださる中で、自分の不甲斐なさを感じていました。するとNさんが、「私はあなたのこと信頼してるから誰にも言わないでね。」と笑顔で言うてくださり、その後もNさんは、「あなたはいつも一生懸命働いてるから、それを見て私はあなたを信頼してるんだよ。」とNさんから私が今欲しいと思つた言葉を言ってくださいました。私は嬉しくなり、小指を差し出して指切りげんまんをしました。

自分ができることがあるのならば、それを一生懸命やり続けられれば、必ず誰かが見てくれている、ということを学ぶことができた日になりました。これからは、何事にも一生懸命頑張つていきたいと思ひます。

「共に楽しく 介護を」

楽しく一緒に
介護をして
いきましよう



私の母は
百歳を目前に
骨折をし
入院することこ

手術は成功した
もの…







お母さんも
元気が戻りますよ

介護士さんが
かけてくれた
この言葉が

介護に前向きに
なる力をくれた



介護士さんは
すぐに病院と
連携を取り

施設と自宅での
生活を可能に
してくれた

薬や食事の取り方
おむつ交換
着替え等のやり方は

自宅でも
教えてもらった



こ...これで
いいでしょうか

大丈夫
大丈夫

一人ではない

何でも相談できる
人がいる



ありがとうございます

それだけで
心強かった

ううん
大丈夫だよ

お母さん足痛む？
リハビリのくらいに
しとこっか



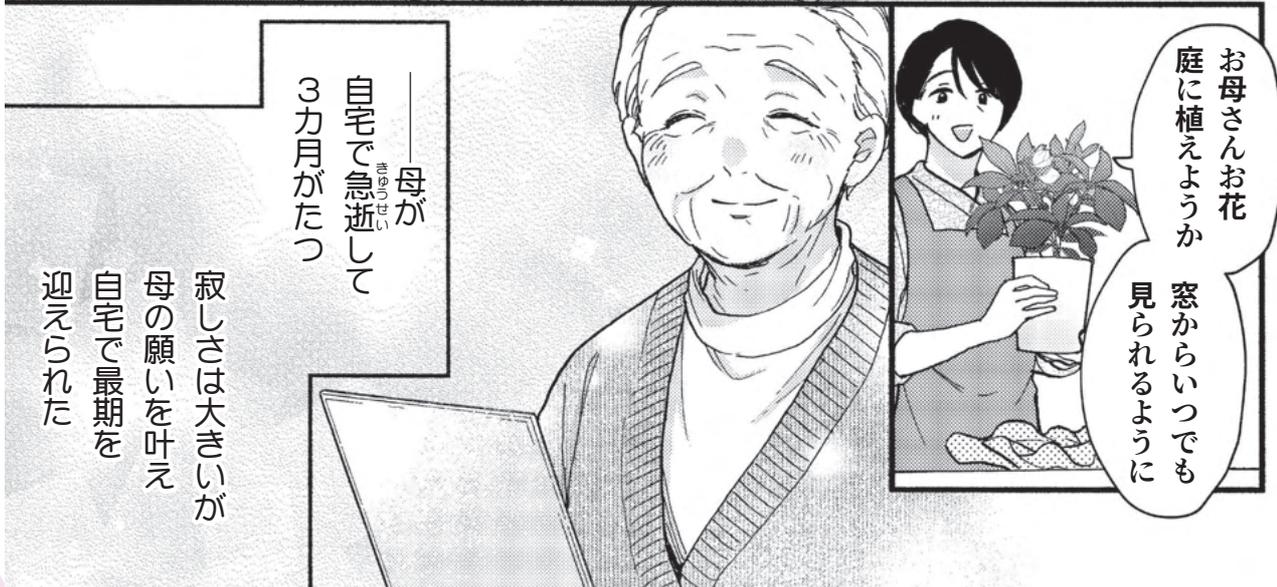
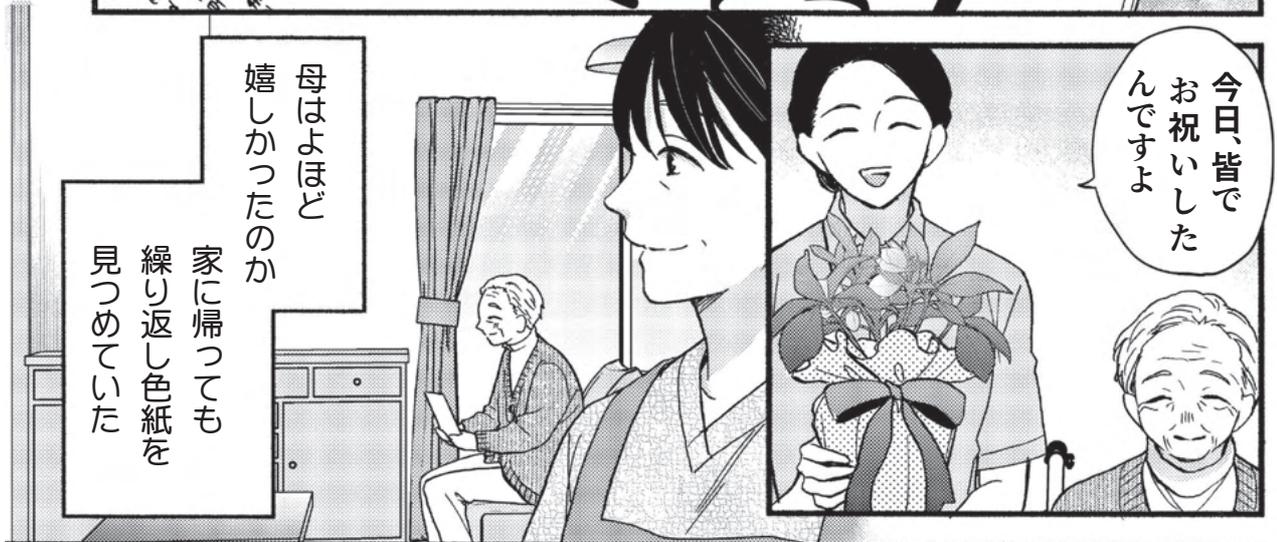
あれ
お母さん
どうしたの
それ

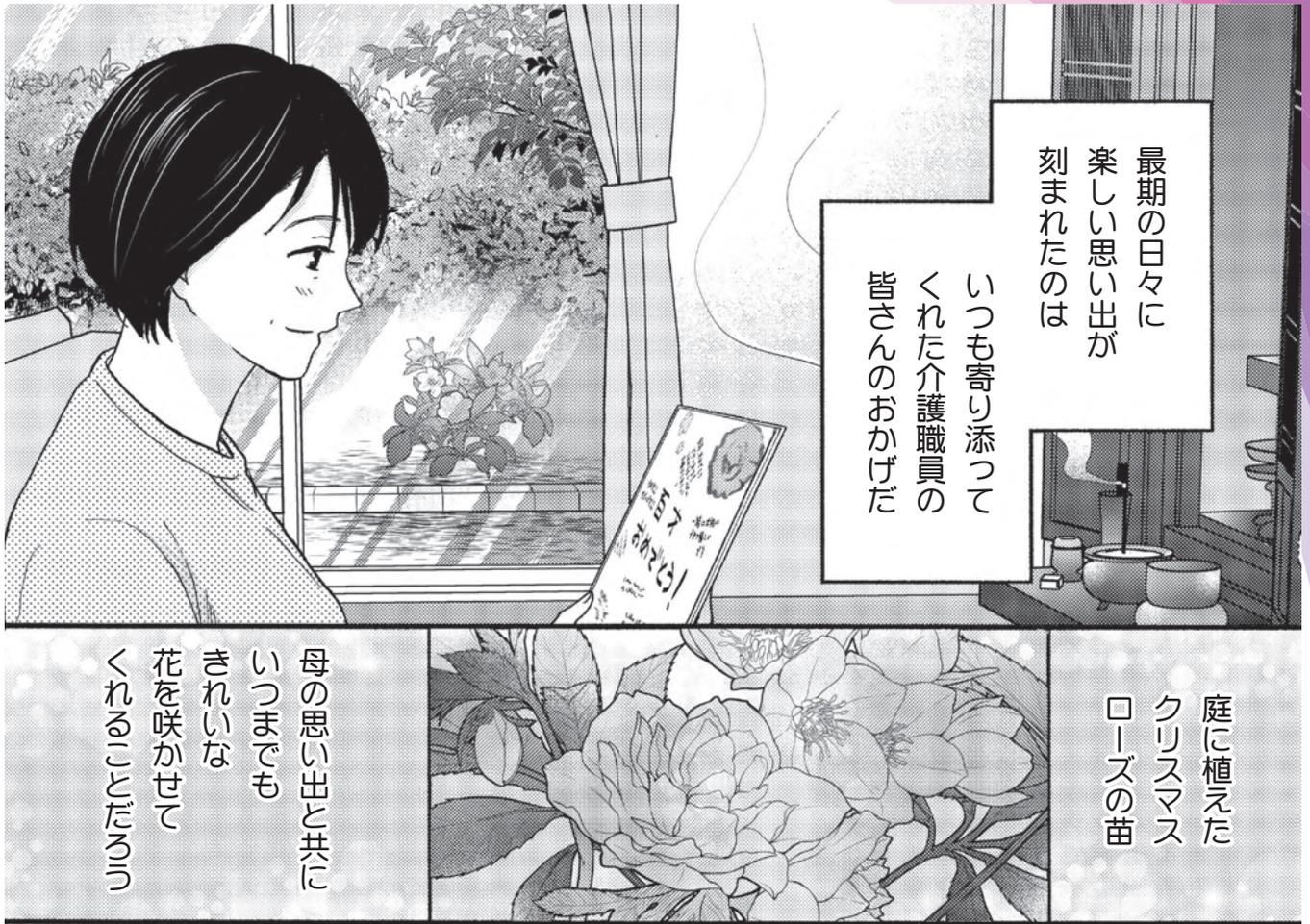
ある日、母を施設に
迎えに行く
大事そつに何かを
抱えてきた



日ごとに元気を
取り戻す母

辛いとばかり思った
介護生活に
希望と楽しみが
加わっていった





最期の日々に
楽しい思い出が
刻まれたのは

いつも寄り添って
くれた介護職員の
皆さんのおかげだ

庭に植えた
クリスマス
ローズの苗

母の思い出と共に
いつまでも
きれいな
花を咲かせて
くれることだろっ

やまなし介護感動ストーリー大賞 準グランプリ作品①

「共に楽しく介護を」

望月 仁美さん

「楽しく一緒に介護をしていきましょう。お母さんも元気が戻りますよ。」百歳を目前にし骨折入院をした母、手術は成功したが、薬も食事も受け付けず衰弱するばかり。家に帰りたいと願いを言う。困り果てた私に介護士さんがかけてくれたこの言葉は、介護に前向きになる力をくれた。介護士さんはすぐに病院と連携を取り、施設と自宅での生活を可能にしてくれた。薬や食事の取り方、おむつ交換、着替え等のやり方は自宅でも教えてもらった。自信なさげな私に、大丈夫ですよいつも寄り添ってくれた。一人ではない、何でも相談できる人がいる、それだけで心強かった。

日ごとに元気を取り戻す母。以前のようにありがとうの言葉もかけてくれた。辛いとばかり思った介護生活に、希望と楽しみが加わっていった。ある日、母を施設に迎えに行くこと、そうに何かを抱えてきた。それは「百歳おめでとう！」と描かれた、職員の方からの心温まる色紙であった。花の苗も添えてあった。母はよほどうれしかったのか、家へ帰っても繰り返し色紙を手に取り見つめていた。

その母が自宅で急逝して3カ月がたつ。寂しさは大きいですが、母の願いを叶え自宅で最期を迎えられた。母も私も幸せだと感謝している。最期の日々に楽しい思い出が刻まれたのは、いつも寄り添ってくれた介護職員の皆さんのおかげだ。庭に植えたあの時のクリスマスローズの苗。

母の思い出と共に、いつまでもきれいな花を咲かせてくれることだろっ。

「優しいのは…」

ご利用者様の
送迎中のこと

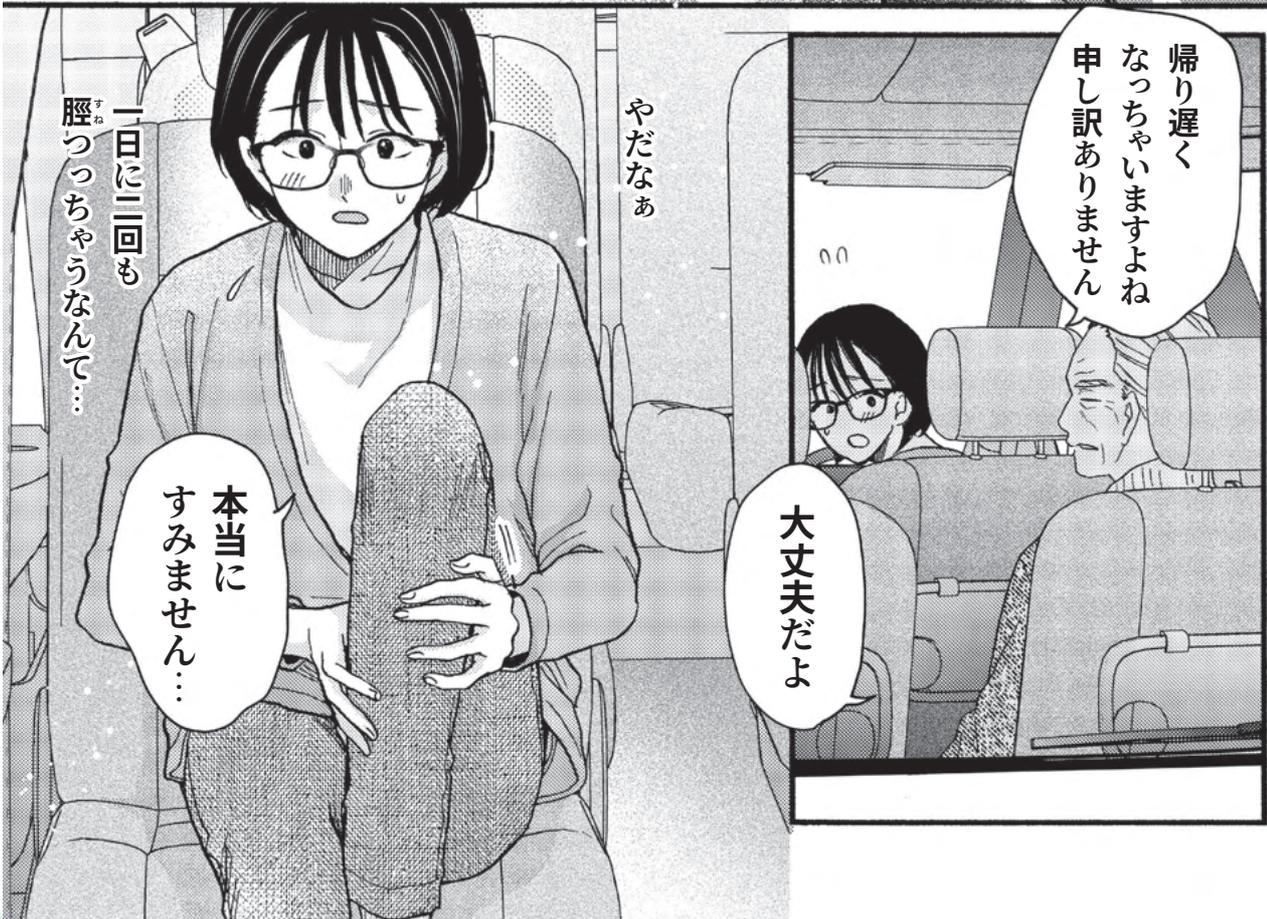
次は山田さんのお宅に向かいますねー

足が

突然、脛が
つってしまいました

あ…





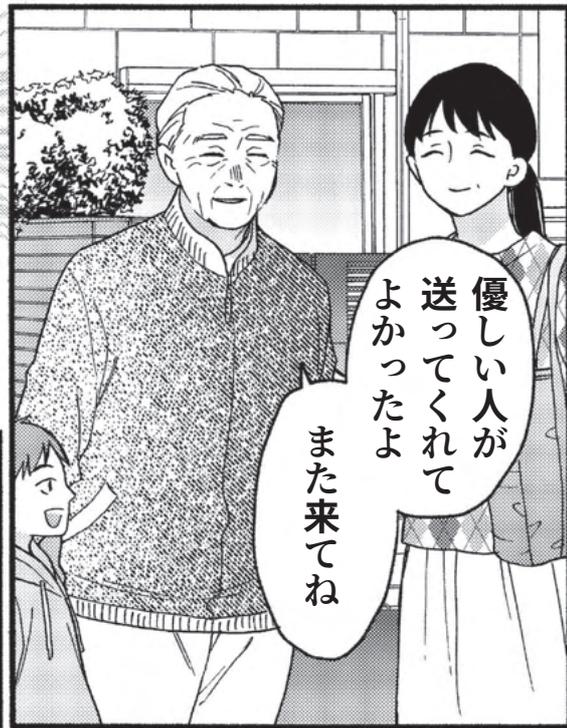




気遣いに心も
目頭もじんわりと
温かくなりました



優しいのは
あなた
です…!!





やまなし介護感動ストーリー大賞 準グランプリ作品②

「優しいのは…」

宮澤^{みやざわ} 理恵^{りえ}さん

ごく最近の話になります。

ご利用者様の送迎中に脛がつってしまいました。すぐ目の前にあるコンビニに避難しご利用者様に事情を説明。しばらくすると落ち着いたのでゆっくり出発しました。助手席に乗っていた方が「慌てないでいいよ。」と優しく声を掛けてくださいました。

その時に乗っていたご利用者様は3名。無事に2人目の自宅にたどり着きました。「さあ、あと一軒。」と、ここでまた脛がつってしまい、治まったと思ったら反対の足！もう、情けないやら申し訳ないやら。何度も「申し訳ありません。」と謝る私に「大丈夫だよ。」ゆっくりでいいから。何もしてあげられなくてごめんね。」と仰ってください、更には「雲が黒いよ。」「ここは凄い坂道だね。」と気を紛らわせようと一生懸命話しかけてくださいました。

その方普段は寡黙な方なのです。

いつもより遅い帰宅になってしまいました。怒るわけでもなく、「優しい人が送ってくれてよかったよ。」「また来てね。」とまたまたありがたいお言葉！

いえいえ、優しいのはあなたです。

ご利用者様の気遣いに心も目頭もじんわり温かくなりました。

事業所に戻り報告すると「水分不足かも。」と貴重なOS-1をスツと差し出してくれた管理者にも実は感動したことは本人には内緒です。